

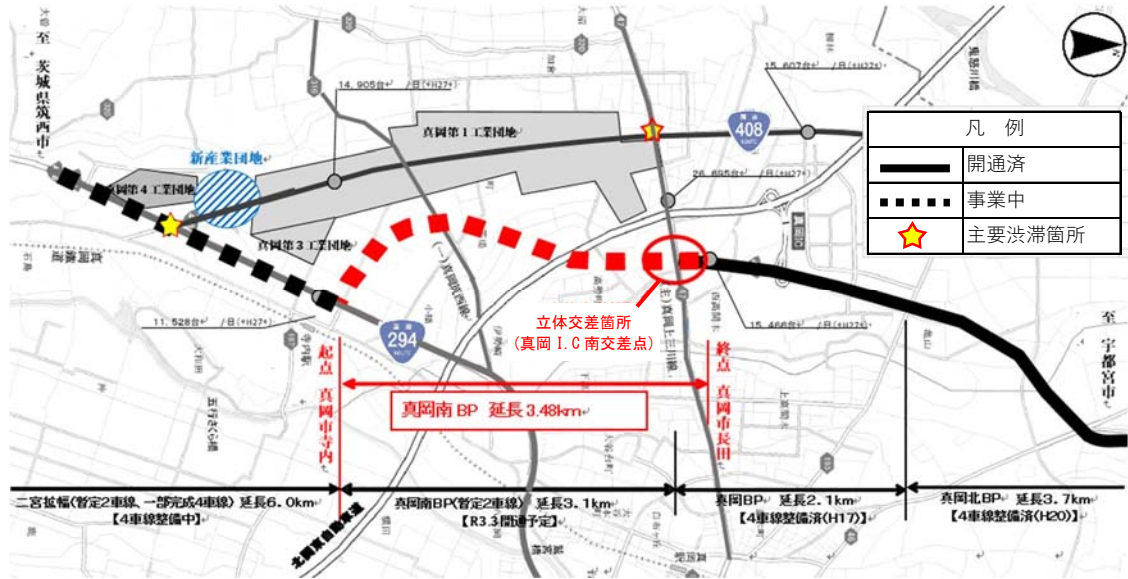
再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：前佛 和秀

事業名	地域高規格道路 常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道408号 真岡南バイパス		事業区分	補助国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県真岡市寺内 至：栃木県真岡市長田				延長	3.5 km
事業概要						
一般国道408号真岡南バイパスは、地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する道路であり、交通渋滞緩和、北関東自動車道真岡ICや常磐自動車道谷和原ICへのアクセス強化、鬼怒川左岸工業団地群の産業支援を目的とし、真岡市寺内～真岡市長田までの延長3.5kmを整備するものである。						
H26年度事業化	H27年度都市計画決定 (H25年度変更)		H27年度用地着手		H28年度工事着手	
全体事業費	140億円	事業進捗率	約62%	供用済延長	3.1km(暫2)	
計画交通量	13,700～21,300台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.9 (残事業) 3.2	46/136億円 (事業費：43/133億円 維持管理費：3.3/3.3億円)		147/262億円 (走行時間短縮便益：93/211億円 走行経費減少便益：44/44億円 交通事故減少便益：6.9/6.9億円)		令和2年
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量 : B/C=1.7～2.1(交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=2.9～3.5(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.9～2.0(事業費 ±10%) 事業費 : B/C=2.9～3.5(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.9～2.0(事業期間±20%) 事業期間 : B/C=3.1～3.3(事業期間±20%)						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 地域高規格道路として、北関東自動車道真岡ICや常磐自動車道谷和原ICへのアクセス強化を図ることにより、県域を越えた連携・交流の促進や周辺工業団地の物流の効率化が見込まれる。 並行する国道408号から真岡南バイパスへ交通転換するため、交通混雑の緩和や旅行速度の向上が期待される。 自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO2, NO2, SPM削減） 						
関係する地方公共団体等の意見						
宇都宮市、真岡市、高根沢町の2市1町による常総・宇都宮東部連絡道路・鬼怒テクノ通り整備促進期成同盟会より、建設促進が要望されている 栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」においてスカイコリドールに位置づけられている						
事業評価監視委員会の意見						
R2.11.9に開催した栃木県公共事業評価委員会において審議の結果、県の対応方針のとおり、事業の継続を妥当とする						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
令和2年度から国道294号二宮拡幅（4車線化）の事業に着手						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得率約100%、事業進捗率約62%						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
令和7年度の完了を目指し、4車線化及び真岡IC南交差点の立体化を推進していく						
施設の構造や工法の変更等						
<ul style="list-style-type: none"> 橋梁の床板には耐久性維持管理に優れた合成床板を採用 今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく 						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。